

橋梁下部工施工における品質確保について

長崎県土木施工管理技士会

株式会社 下田組

現場代理人

藤田 晴 幸

1. はじめに

本工事は、高規格幹線道路網の一環として計画された道路であり、九州西北部の地域経済の活性化、高速定時制の確保に大きく寄与するものです。本路線は、佐世保市を經由して武雄に至る延長150kmの一般国道の自動車専用道路で内佐世保市平瀬地区の下部工 P50（暫定施工）・P51（二次施工）・P52（二次施工）の工事を行うものである。

工事概要

工事名：長崎497号佐世保高架橋

下部工（P50～P52）工事

発注者：国土交通省九州地方整備局

長崎河川国道事務所

工事場所：長崎県佐世保市平瀬町地先



図-1 現場位置図

工 期：平成18年 3月11日～
平成18年 3月31日

2. 現場における課題・問題点

今回の工事施工箇所は、佐世保湾沿岸部に位置し塩害の影響を受ける恐れがある事。また、近年問題となっているコンクリート構造物に発生するクラックの防止対策が課題となった。

3. 対応策・工夫・改良点

① 塩害対策

型枠組立て時通常のPコーンを使用した場合はセパレータ（鉄性）が鉄筋所定かぶり内に入ってしまう為、今回は長尺Pコーン（塩害対策用）を使用した。



写真-1 完成

その後、表面養生剤を散布し保水シートにて養生した。



写真-6 温水養生



写真-7 コンクリート保水シート



写真-8 コンクリート表面養生剤

その結果、橋梁下部工3基ともクラックの発生は無く、良い品質のコンクリート構造物を施工する事ができた。

4. おわりに

今回の橋梁下部工の工事は、県内でも類を見ない梁の大きさで未経験のため不安だらけだった。

しかし、会社の上司・協力会社の強力なサポートがあり、良い品質の施工ができ、また作業員一人一人が安全意識の向上を図り、無事故・無災害で竣工を迎える事ができた。

今後もコンクリートの品質管理には、十分配慮し問題意識を持って仕事をしていきたい。